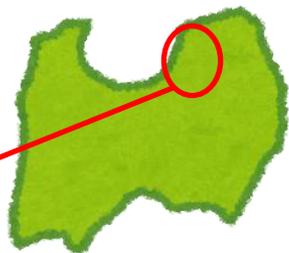


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(R2年度:計画作成主体:黒部市農業再生協議会) (富山県)

取組の概要

対象品目 : 水稻 (産地面積64.7ha)
 主な取組主体 : (農)前山、(農)前沢西部営農組合
 成果目標 : 輸出向け出荷量の10%以上拡大
 基準 (R1年度) 2.1t
 目標 (R4年度) 53.7t
 導入施設等 : (農)前山
 整備事業 (建物、乾燥機2台、糶タンク、フローコンベア等一式)
 (農)前沢西部営農組合
 生産支援事業 (機械リース (トラクタ及び付属機1台、コンバイン1台))

富山県黒部市
前沢西部地区



推進体制

地域の関係者 (県、黒部市、黒部市農業協同組合、農業関係者等) が一体となり、事業を推進

地域における独自の取組

基盤整備を契機とした農地利用率の向上と担い手への効率的な農地集積に加え、大区画ほ場での大型機の利用や直播・密苗栽培の導入による低コスト農業の実践

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

黒部市前沢西部地区は、平坦地と一部中山間地に位置し、コシヒカリを中心とした水稻単作地帯である。近年は、農地整備事業の着工や集落営農法人の育成が進みつつあるが、農業従事者の急速な高齢化や担い手への過重な負担により、生産力の低下や不作付け農地の増加が懸念されている。このため、担い手への農地集積と合わせ、水稻の乾燥施設や機械作業等の集約化により作業の効率化を図るとともに、高温耐性品種の作付や直播栽培の導入等により、品質向上とコスト低減を図り、需要に応じた主食用米や輸出用米等の生産拡大を実現する。



【産地の体質強化に向けた方策】

乾燥調製施設の集約化や高性能機械の導入により生産体制の効率化を図るとともに、直播栽培や高温耐性品種の導入により、コスト削減や良質米の輸出拡大に取り組む。

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①乾燥調製施設の能力増強による経営規模の拡大と品質向上の推進
- ②リース支援による初期投資の節減効果

【事業実施による間接効果】

- ①地区内で農地を守る意欲の向上により、他地区への農地の流出抑制
- ②名水の里・黒部米ブランドの維持・向上

輸出用米の
出荷量が増加
(達成率100%)

目標値 53.7t

53.7t

